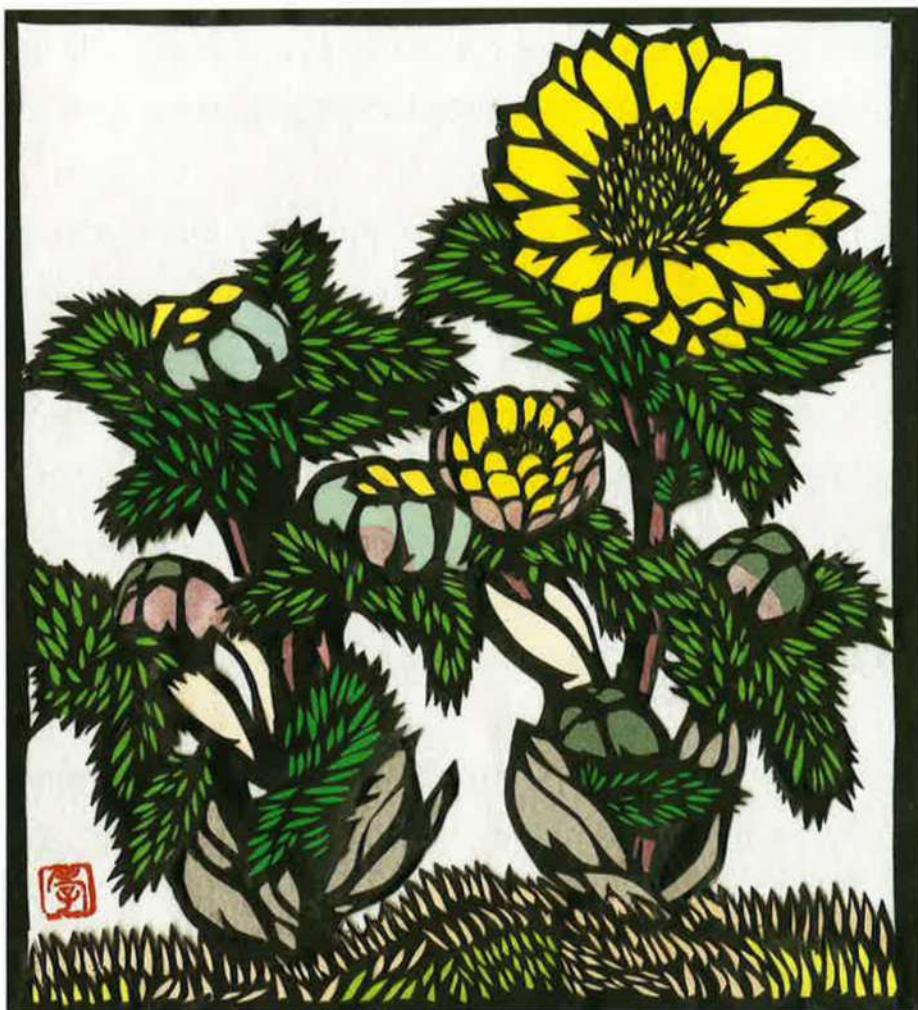


岩手郡医報

題字 高橋 孝



切り画 高橋 孝

岩手郡医師会
No.84／2006年3月

表紙のことば

玉山村の先生方と医師会の上ではお別れになる最後の医報の表紙です。もうこの花しかありません。早春に、深裂の美しい黄金の花、幸福の花、また開花期の長いことから長寿に例えられるこれだけめでたい花はない。盛岡市医師会に移ってもご清祥にて益々ご発展されますことを祈念して、福寿草の切り画を一葉添えました。

零石町 高 橋 孝

巻頭言



「接遇と対話」

岩手郡医師会 理事
岡田行生

長期天気予報では今冬は暖冬と予想されていましたが、現実は寒い雪の多い厳しい冬になっています。特に寒さの厳しい朝は外来待合室も閑散としており、わが病院も次期の県立病院改革では診療所に格下げになってしまうのではと危惧されます。

一方この寒さと雪でスキー場はすばらしいゲレンデの状態で爽快なスキーを楽しむことができます。しかし一度行ったスキー客はなかなか戻ってこないように思われます。

医療で足りないものは、親切さ、素早さ、安全さと言われますが、スキー場ではその上にまずい、高い、寒いが加わり皆スキーに行かなくなってしまいました。あるスキー場ではサービス、接遇を従業員に徹底させることでスキー客が増え始めたということです。

医療はサービス業といわれるようになり、われわれの年代の医師は少なからず違和感を持ちます。しかし、新臨床研修が始まり当院にも研修医が地域医療研修にやってきたとき、彼らは患者に親切丁寧に接するように指導されており、われわれも接遇のあり方を考え直す必要があるよう感じました。

患者が医療に100%を求めている現在の状況がトラブルに発展することを考えると、患者と親切に丁寧に対話することが親切さ・素早さ・安全さを実現するために肝要と思われます。

目 次

巻 頭 言	岩手郡医師会 理事 岡 田 行 生	1
総会議事録		
平成17年度 臨時総会議事録	総務担当理事 篠 村 達 雅	2
平成17年度 臨時総会会務報告要旨	会長 及 川 忠 人	2
平成17年度 第2回通常総会議事録	総務担当理事 篠 村 達 雅	4
平成17年度 第2回通常総務会会長挨拶要旨	会長 及 川 忠 人	8
特 別 講 演 肝癌治療－最近の話題－		
岩手医科大学医学部 外科学第一講座教授 若 林 剛		9
総務会報告		
平成17年度 第5回総務会	総務担当理事 篠 村 達 雅	11
平成17年度 第6回総務会	総務担当理事 篠 村 達 雅	11
理事会議事録		
平成17年度 第5回理事会議事録	総務担当理事 篠 村 達 雅	11
平成17年度 第6回理事会議事録	総務担当理事 篠 村 達 雅	12
部 会 報 告		
地域医療部会	担当理事 篠 村 達 雅	13
広報部会	担当理事 栄 内 秀 彦	14
勤務医部会	担当理事 岡 田 行 生	14
学校医部会	担当理事 上 原 充 郎	14
健康教育部会	担当理事 飯 島 仁	15
第58回岩手県医師会親睦野球大会企画委員会		
	総務担当理事 篠 村 達 雅	15
玉山村の盛岡市への合併に寄せて		
	岩手郡医師会 及 川 忠 人	16
	医療法人日新堂 八 角 正 司	17
	秋浜内科クリニック 秋 濱 玄	17
新入会員の紹介	北上脳神経外科クリニック 北 上 明	18
計 報	玉山岡本病院 岡 本 彰	19
会員の異動		20
お 知 ら せ	平成18年度 岩手郡医師会健康診断について	20
編 集 後 記	会報編集委員 秋 濱 朋 子	21
	会報編集委員 植 田 修	21
	会報編集委員 成 島 勝之助	21

総会議事録

総務担当理事 篠 村 達 雅

平成17年度 臨時総会議事録

日 時：平成17年11月26日(土)
午後5時半
場 所：ホテルメトロポリタン盛岡
New Wing
出席者の確認：委任状を含め81名の参加であり、
定款に定める定数を満たしたた
め会の開催を宣言した。
議長選出：高橋 孝 副会長を選出した。

会長挨拶：及川 忠人 会長が挨拶した。
〔報告事項〕
及川 忠人 会長が会務報告を行った。
質疑なく、臨時総会を終了した。
玉山村の先生方とは最後となる忘年会
が盛大に行われた。

平成17年度 臨時総会会務報告要旨

会長 及川 忠人

平成17年度の活動状況および今後の課題を含めて、会務報告ということで、若干の時間を頂き、岩手郡医師会の置かれている現状についてご説明申しあげたいと存じます。

まず最も身近でこれまで経験のない課題としては、町村合併があります。岩手郡医師会管内では平成17年9月1日に西根町・安代町・松尾村が合併して八幡平市になり、10月2日には新しい市長も誕生しまして、新しい体制になり、今後が期待されております。

しかしながら地域特性を加味しながら、救急医療の見直しを初め、地域医療の確保のために、八幡平市管内の診療所・医院・病院に所属する医師および関連スタッフの話し合いの場が必要と思われ、ようやく今月末に田村新市長が中心になり、旧3カ町村の医師等に呼びかけて、八幡平市における地域医療の今後のあり方を検討する前に、顔と顔を合わせながら、新たな地域医療の構築へ向けての方向がようやく見て参りました。あくまでも医師会は地域

医療の確保および関連スタッフの合併の課題についての啓発活動が必要であると思われます。

一方玉山村と盛岡市の合併については、数回の合併にむけての準備会である地域医療懇談会で意見を結集して、先日11月15日に盛岡市医師会の主要役員との協議会を持ちまして、スムーズな異動が行われる相互理解の場が持たれました。平成18年1月10日の合併日ですでのまだ正式に決定したわけでは御座いませんが、我が岩手郡医師会の玉山村のメンバーを暖かく迎える準備が整いつつあることを、心から感謝している次第です。

われわれの活動は地味ではございますが、地域社会へ与える影響は実に大きいと思います。また、昨今の社会情勢をみると、人間として心が抜けてしまったとしか思えない、信じられないような事件が、次から次へと休み無しに起こっていることに、私たちは心を留めてみる必要があると思います。そのような時であればこそ、地域住民の健康を守り、また地域医療を確

保しつつ地域に安心を与えることは、われわれの大きな使命であると考えたいと思います。

また4月の年度のスタートから課題になっていたことは適正な保険診療のことあります、10月7日に保険担当者研修会(集団指導)を行い、欠席された方々の理由を求められました。いずれにしても集団指導の出発点は個別の指導をまとめてやるという意味がそもそもあったわけで御座いますので、時節柄、厳しい経済社会情勢ですので、会員の諸先生方には、その点のご理解を宜しく御願い申し上げます。

岩手郡医師会は依然として、合併があるにせよ6市町村の集合体であり、その連絡はすぐ顔を合わせてとはとても行きません。そのためファックス網を作りさらによくこの7月から岩手郡医師会のホームページが簡略ながら立ち上げられ、ようやく人並みの形が整ってきていると思われます。しかしながら医師会行事や連絡等、いろいろな面での不十分な対応が多かったことも事実であります。まだまだですが、すこしずつそれらの連絡網の整備をして参りたいと思います。

広報委員会は成島理事を中心として、ようやくスムーズな会報が出されるようになりましたが、まだまだ改善の余地があると思いますが、何とかこのペースを持続させるために、会員諸先生方のご支援ご協力を御願い致したいと思います。

さて、ここ数ヵ月、8月の衆議院解散総選挙そして地元の市長選挙等、地域医師会としての医政活動に多くの時間と労力をとられた感じが致します。しかしながら、地域の医療を確保していく上で、医政がとても重要であり、さらにこれから地域社会の強化には我々の使命がかなり大きいのではないかと思います。武見太郎先生は「医療は医学の社会的適用である」という有名な言葉を残されましたか、いまでもその言葉は新鮮に響いてくるように思われてなりません。その医療を確保し、守りすすむのが医師会の主たる活動であるべきと常に確信する次第ですが、今後岩手郡医師会は当面、平

成18年8月に岩手県医師会親睦野球大会の担当医師会としての準備が控えております。また我が岩手郡医師会の予算編成の検討方法やこれまでの運営方法および定款の見直し等が大切な課題として残されております。

また、今月に入り、37の団体が参加した国民医療推進協議会が呼びかけている「国民皆保険制度を守る署名運動について」それぞれの会員の諸先生方には、大変なご支援とご苦労を頂き、予想以上の署名がなされているように聴いております。岩手郡医師会でも呼びかけました様にそれぞれのお宅でも外来の患者さん達にも積極的な対応を行い、少しでも多い署名数の確保を御願い申し上げます。この署名活動の力で食費・居住費の自己負担化や低額医療は全額患者負担にする保険免責制の導入、高齢者の負担を2割から3割に引き上げ、患者負担額の月額上限の引き上げなど国民皆保険制度を崩壊させる財政偏重の改革に反対する運動を少しでも盛り上げて頂きたいと存じますので、宜しくご支援ご協力をお願い致します。来週の月曜日は中間報告があります。再度ご協力を御願い申し上げる次第です。

本日はたまたま、ホスピスケア講習会との連動という形での臨時総会となり、遠路岩手の地にこられました中島健二先生と県立中央病院の望月泉先生に心から感謝申し上げますと同時に、ご多忙の中をご出席頂きました岩手郡医師会会員の諸先生方および関連する多くの看護師さん方に心から御礼を申し上げまして、岩手郡医師会臨時総会における会務報告に代える次第であります。本日は誠に有り難う御座いました。



通常総会

平成17年度 第2回通常総会議事録

日 時：平成18年2月4日（土）
午後3時半
場 所：ホテルメトロポリタン盛岡 本館
出席者の確認：委任状を含め、83名の参加であり、定款の定数を満たしたため会の開催を宣言した。

議長選出：高橋 孝 副会長を選出した。
会に先立ち1月8日に逝去された玉山岡本病院の故岡本 彰 院長に全員で黙祷を捧げた。

会長挨拶：及川 忠人 会長より挨拶があった。
[報告事項]

平成17年度部会活動について各担当理事が報告した。

[議 事]

第1号議案 岩手郡医師会会員（旧玉山村）会員について、盛岡市医師会への異動が4月1日となることが承認された。

第2号議案 平成17年度岩手郡医師会一般会計補正予算（案）について承認された。

第3号議案 平成17年度岩手郡医師会特別会計補正予算（案）について承認された。

第4号議案 平成18年度岩手郡医師会事業計画（案）について全会一致で承認された。

日本経済に明るい兆しが見えてきたとはいえ、我が国における医療の現状は益々厳しい環境におかれようとしている。特に昨年9月の総選挙は、郵政民営化の是非を問うものであったが、自民党の圧勝によって官邸主導型の政策が進み本年4月からの医療保険診療報酬改定はマイナス3.16%の抑制方向で決着し、各医療機関・施設の運営は厳しい展開が予想される。昨年秋から国民運動として展開された「国民皆保険制度を守る国民運動」は全国で1,700万人もの署名を集めまさしく国民運動となつたが、今後医療制度改革は国会の場での論議となり、予断を許さない状況にある。

一方県内では研修医制度の改革とともに医師不足が表面化し、小児科および産婦人科の医

療体制の確保維持も大きな課題となり、医師確保も困難な地域が増加している現状にある。これらの状況下で、地域医師会の活性化と同時に地域住民の健康保持・地域医療体制の確保を主体とした医師会活動等の実践がさらに要請されている。

岩手郡医師会は現状の課題を直視して地域住民に適切な地域医療を提供し、さらに保険・福祉および介護保険制度との連携・支援を基軸として関連職種や地域住民への啓発活動を実施して、進行する少子高齢社会の中で、住み慣れた所で安心して生き生きと暮らせる地域社会の実現を図るために、以下の事業を進めて参りたい。

- 1) 医の倫理と生命倫理の向上
- 2) 県医師会事業への全面的協力
- 3) 医政の強化
- 4) 会員の自浄作用の活性化
- 5) 地域医療の強化
- 6) 生涯教育の実践
- 7) 会員福祉の充実
- 8) 医療経営の安定化
- 9) 保険医療の適正化
- 10) 地域住民の健康啓発教育
- 11) 地域リハビリテーションの推進
- 12) 介護保険および介護予防への連携と支援

第5号議案 平成18年度岩手郡医師会一般会計歳入歳出予算（案）について承認された。

第6号議案 平成18年度岩手郡医師会休祭日当番医会計歳入歳出予算（案）について承認された。

第7号議案 岩手郡医師会定款の一部改正について承認された。

第8号議案 岩手郡救急医療対策協議会設置要綱の一部改正について承認された。

第9号議案 役員改選が行われた。

- 1) 岩手郡医師会役員選出委員会高橋 孝 委員長より経過報告があった。
- 理事13名（飯島 仁、及川 忠人、岡田

行生、上原 充郎、久保谷 康夫、佐々木 久夫
 篠村 達雅、高橋 克郎、高橋 邦尚、柄内
 秀彦、森 茂雄、山口 淑子、和田 進)
 監事2名(高橋 孝、西島 康之)の候補が
 選出された。

- ・定款第13条により、前記15名が選任
 された。
- ・定款第13条2により、理事の互選によ
 る会長(及川 忠人)副会長(岡田 行生、
 篠村 達雅)が選任された。

2) 県医師会への役員候補の推薦が行われた。

副会長(高橋 牧之介)、理事(紺野 敏昭)、
 裁定委員(西島 康之)、代議員(及川 忠人、
 久保谷 康夫、篠村 達雅)予備代議員
 (土井尻 健一、遠藤 哲夫、植田 修)が承
 認された。

3) 岩手郡医師会顧問(高橋 牧之介)が承認さ
 れた。

以上で議事を終了した。

特別講演は「肝癌の治療」について岩手
 医大第1外科若林剛教授により行われた。

ひき続き懇親会が東八幡平病院佐藤誠先
 生の乾杯の音頭で開催された。岩手町に開
 業した北上明先生の紹介、旧玉山村の先生
 方よりの感謝の挨拶があり盛会であった。



勤務医担当 岡田 行生 理事



学校医担当 上原 充郎 理事



保険担当 佐々木 久夫 理事



総務担当 篠村 達雅 理事



産業医担当 三善 悟 理事



通常総会



健康教育担当 飯島 仁 理事



通常総会 議長 高橋 孝 副会長



広報担当 柄内 秀彦 理事



新入会員 北上 明 先生



新役員の方々の紹介



4月より医師会を異動する玉山村の先生方、左より
成島 勝之助、八角 正司、三善 悟、遠藤 窓幸の各先生



懇親会 乾杯 佐藤 誠 先生



懇親会



懇親会



懇親会



懇親会

平成17年度 第2回通常総会挨拶要旨

会長 及川忠人



本日は土曜日のご多用なところ、厳しい寒さと足元の悪い中にもかかわらず、多数の岩手郡医師会会員の先生方のご参加を頂き、平成17年度第2回岩手郡医師会通常総会を開催することが出来ますことを心から感謝申し上げます。

さて平成16年2月に岩手郡医師会会长に推挙され、平成16年度および平成17年度の岩手郡医師会会務の運営に努力してまいりました。

この間、顧問で岩手県医師会副会長の高橋牧之介先生および副会長の高橋孝先生、同じく副会長の西島康之先生さらに理事各位の絶大なご支援、ご協力により、何とか大過なく医師会業務をこなすことが出来ましたことをご報告申し上げ、重ねて心から感謝申し上げます。

8期16年のご経験と見識を持たれる高橋牧之介先生の後任としては、誠に経験も少なく力不足であり、浅学菲才であることから、多くの会員にご迷惑をかけてきた面も多々あるのではないかと反省している次第であります。

岩手郡医師会は8カ町村の広域の地域を有し、役職員一同が集まる固定した集合場所も無い中で、総務会・理事会・総会等の会議はほとんど盛岡市内で行う形で活動がなされて参りました。しかしながらこれまで不十分とはいえ、ファクス連絡網、郡医師会ホームページの作成も実現され、また各地域の医師会会員のご協力により休祭日当番医の患者集計も医師会事務局によりその概要を把握する体制が少しづつ整備されつつあることは、誠に有難いことで感謝に耐えない次第であります。

本総会では、これまでの各担当部会の活動のご報告をお願いし、昨年11月15日に開催されました盛岡市医師会との合併協議会の内容を受けて、本年1月10日に盛岡市と玉山村の合併がすでに実施され、旧玉山村に事業所を有する岩手郡医師会会員の異動についてのご承認を得る案件のほか、平成17年度一般会計および特別会計補正予算案、さらに平成18年度事業計画そして平成18年度の一般会計予算案および休祭日当番医会計予算の審議を宜しくお願いしたいと存じます。加えて岩手郡医師会定款の一部改定と、今年は2年毎に行われる役員改選があります。過密なスケジュールですがスムーズに進めて行くように、宜しくご協力ご支援をお願い申し上げます。

さて今の日本の世相は誠に暗く年明け早々、赤ちゃん誘拐事件が仙台で起こり、身代金6,000万円の要求がなされ、赤ちゃんも無事で何とか解決しましたが、その原因が病院への入院希望が断られたためと聞き、唖然とせざるを得ない状況がありました。その後、米国からの牛肉輸入品脊髄混入問題、姉歯建築士による鉄筋減産事件、東横イン不正建築問題そしてさらにライドアの不正証券事件によるホリエモンの逮捕とめまぐるしい騒然とするような事件が相次ぎ、暗い年明けのスタートとなりました。

また17年度のこれまでの歩みの中で、9月11日の衆議院選挙、さらに11月からはじまった、医療費国民負担軽減署名運動等、多くの医政にかかわることに多い医師会活動がありました。この間、インフルエンザ感染予防研修会、ホスピス医療研修会、町村民健康講座等の開催も無事各担当理事および地元の諸先生方のご支援およびご協力の中に盛会裡に運営されましたことをここにご報告申し上げます。

さて、平成18年度からの医療費が3.16%マイナスの改定が現在進行中であります。すでに介護保険の点数が1月25日に公表されており

ますが、厳しい内容であり、これに加えどのような診療報酬改定がなされるか、共々その情報に気を配る必要があると思います。いずれにしても3月下旬に診療報酬改定についての説明会を開催することになろうと思いますが、マイナス改定の中で、それぞれの医療機関におけるマイナス要因となるべく小さくする工夫と努力を薦めており(岩手県医報の巻頭言で石川 育成 県医師会会长は薦めております)郡医師会会員におかれましてもその工夫努力を今からご準備されるようお願い申し上げます。また日本医師会および岩手県医師会の最近の動向については岩手県医報、日医ニュースをご覧いただいているものとして省略させていただきたいと存じます。

今地域医師会が地域医療の確保はもちろん、保健福祉への積極的関与と健康啓発活動をも含めた幅の広い活動が要請される時代になりました。これまでの先達が築き上げてきた岩手郡医師会の伝統を踏まえ、「故きを温ねて新しきを知る:温故知新」を大切にしながら医師会の地域に根ざした諸活動の運営に努めて参りたいと思いますので、各岩手郡医師会会員各位におかれましては、地域住民から信頼され、地域に尽くす医師会を目指し医師会活動を実践するためにも、これまで以上の絶大なご鞭撻ご指導を心からお願い申し上げまして、会長挨拶に代えさせていただきます。本日は宜しくお願い申し上げます。有難うございました。



特別講演

肝癌治療 —最近の話題—

岩手医科大学医学部第一外科
若林 剛 教授

原発性肝癌は悪性新生物のうち男性で第三位の死亡率であり、今後も2015年頃までは漸増していくと思われる。本邦の原発性肝癌は、95%が肝炎ウイルス由来の背景肝疾患を併存している。C型肝炎が70%、B型肝炎が20%であり、背景肝疾患由来の再発により、根元的治療後も再発を繰り返す癌として患者は特徴的な経過を示す。

毎年、約3万人の患者がこの病氣で亡くなるが、一人の患者は亡くなるまでに平均数回の治療を受けている。したがって、原発性肝癌の述べ患者数は非常に多く、消化器疾患の中でも重要な位置を占める。

第16回全国原発性肝癌追跡調査報告(2001年～2002年)によると、根本的治療1年後には、31.7%の患者にすでに何らかの再発が認められる。肝細胞癌に対して選択される治療は、切除や移植などの外科的治療から、主に

内科医によって行われているエタノール注入やラジオ波などの穿刺治療(ablation)、そして内科医や放射線科医によって行われている肝動脈塞栓術などが挙げられる。肝細胞癌に対する治療は、肝障害度と癌の進展度により決められるが、これらの3つの主要な治療をいかに選択するかが現在の肝細胞癌治療の課題である。

そんな中、2005年の春に肝癌診療ガイドラインが作成され、一応の指針が示された。しかし、実際の臨床では切除と穿刺治療の選択基準や切除と塞栓の境界が曖昧であり、肝細胞癌治療にあたる3つの科で治療方針に若干の差異があるのが現状である。したがって、患者に最も利益をもたらす治療を選択するためには、肝細胞癌治療にあたる3つの科で治療方針を十分協議して決める必要がある。

外科治療は侵襲的治療であり、いかなる侵襲的治療も治療効果(根治性)と患者への負担(侵

襲性)で規定される。肝細胞癌治療も、これらの観点から見ると、最も低侵襲である治療は局所麻酔下で行えるラジオ波治療などの穿刺治療である。しかし、穿刺治療は腫瘍に針を直接刺入するため、穿刺が不正確だと局所発生を来し腫瘍細胞が播種する危険を伴う。このような場合は、せっかく低侵襲な治療であっても根治性が損なわれる可能性がある。

一方、肝移植は健常人をドナーにする点や全身麻酔下で10時間を超える手術を必要とし、退院までに平均3カ月を要する点などからみても、最も侵襲性の高い治療である。しかしながら、背景肝を正常肝に置換するため、肝炎ウイルスに対する治療も併用すれば、ある一定の条件(ミラノ基準:3cm以下3個まで、もしくは5cm以下単発)以下の比較的早期の肝細胞癌に対しては二度と再発を認めることはない。したがって、肝細胞癌治療としての根治性は最も高い。

開腹肝切除も侵襲性は高いが、切除した部位からの再発はなく肝移植につき根治性の高い治療と言える。

肝癌に対する内視鏡治療は、腹腔鏡や胸腔鏡を用いて肝切除や穿刺治療を行うもので、低侵襲でありかつ根治性の高い治療として注目されている。局所麻酔下の穿刺治療と全身麻酔下の開腹肝切除の間を埋める治療として、肝癌に対する内視鏡治療は今後の普及が期待されている。

肝動脈塞栓は肝細胞癌への栄養血管を塞栓することで腫瘍壊死をもたらす治療であり、腫瘍への栄養血管の分布や塞栓血管の再開通などにより、どうしても根治性を上げられない場合がある。しかし、多発する肝細胞癌に対しては他に有効な治療がない場合が多く、局所麻酔下の治療で繰り返すことが可能な低侵襲治療として有用である。これら、肝細胞癌治療の侵襲性と根治性を考慮して、患者ごとのテーラーメード治療を選択することが肝細胞癌患者の予後を向上させるものと考える。

筆者はできるだけ低侵襲に根治性の高い治療を肝癌患者に行うため、best approachという概念で治療法を選択してきた。具体的には、確実に穿刺治療ができる場合は経皮的治療を選択し、腫瘍が描出しにくい場合や腫瘍

に隣接臓器が接する場合は、腹腔鏡や胸腔鏡を体内に挿入し術中超音波検査を直接肝表面から施行する。内視鏡下に行う術中超音波検査は、体表からの超音波検査より画像描出の精度が増し正確な穿刺治療が可能となる。また、内視鏡を挿入することで表在や辺縁にある腫瘍は切除でき、あるいは隣接臓器を損傷することなく穿刺治療が行える。さらに、右季肋部に小切開をおくことで治療の自由度が増し、多数の腫瘍を治療でき大きな腫瘍の切除や穿刺治療が可能となる。このように患者ごとにapproachを変えることで、できるだけ低侵襲に、かつ、より根治的な治療が行えると考える。

以上のような考え方に基づき、筆者はこれまでに600名を越える肝細胞癌患者の治療にあたって来た。肝硬変が進んだ患者にできた肝細胞癌の治療として、生体肝移植を12名に施行して良好な成績を得ている。また、腹腔鏡下肝切除を含み切除による治療は約280名、残りは凍結治療の150名を含みラジオ波とマイクロ波による穿刺治療が約350名である。すべての患者で5年生存率は約65%であり、臨床病期別に見ても全国的な平均より成績が良かった。

切除と穿刺治療の成績を比較すると、累積生存率では両者に差がなかったが³、無再発生存率では切除の方が約10%良かった。これは、穿刺治療が局所再発を含めて、どうしても約10%再発が多いことを示している。つまり、穿刺治療は1回の治療は低侵襲であるが、再発により次の治療までの期間が短く、切除と同等の生存率を得るためにには治療回数が増えることを意味している。

肝癌の治療は再発しやすいという特徴から、治療方針は侵襲性と根治性のバランスにより決められ、患者ごとのテーラーメード治療が必要である。すべての外科治療は、治療の侵襲とその効果(癌に対する根治性と良性疾患に対する患者満足度)のバランスにより決められるとすれば、肝癌治療と同様なテーラーメード治療が必要になるはずである。これから外科治療は、治療ができるだけ低侵襲に、そしてその効果を最大に上げる方向に発展していくものと思われる。

総務会報告

総務担当理事 篠村達雅

平成17年度 第5回総務会

日 時：平成17年12月6日(火)
午後6時半
出席者：及川忠人会長、
西島康之副会長、
場 所：ホテルメトロポリタン盛岡
New Wing
栃内秀彦・篠村達雅の各理事

平成17年度 第6回総務会

日 時：平成18年1月12日(木)
午後7時
出席者：及川忠人会長、高橋孝・
西島康之の両副会長、
場 所：ホテルメトロポリタン盛岡
New Wing
栃内秀彦・篠村達雅の各理事

理事会議事録

総務担当理事 篠村達雅

平成17年度 第5回理事会議事録

日 時：平成17年12月14日(水)
午後6時半
場 所：ホテルメトロポリタン盛岡 本館
出席者：及川忠人会長、飯島仁、
岡田行生、上原充郎、
紺野敏昭、佐々木久夫、
篠村達雅、栃内秀彦、
成島勝之助、三善悟の各理事
〔報告事項〕

1) 玉山村合併に関する地域医療懇談会
(11月10日)について報告した。

- 2) 盛岡市医師会との合併に関する協議会
(11月15日)について報告した。
- 3) 第3回都市医師会長懇談会(11月19日)
について報告した。
- 4) 平成17年度盛岡地域介護・保健福祉協
議会(11月22日)について報告した。
- 5) 平成17年度緩和ケア・ホスピスケア
医療講習会(11月26日)について報告し
た。
- 6) 平成17年度岩手郡医師会臨時総会・
忘年会(11月26日)について報告した。

- 7) 第4回郡市医師会長協議会(12月10日)
について報告した。
- 8) 患者負担増反対署名活動報告について
報告した。
- [協議事項]
- 1) 町村民健康講座(岩手町:12月18日)
について承認した。
 - 2) ホスピスケア研修会(滝沢村:平成18年
1月21日)について承認した。
- 3) 平成18年度岩手郡医師会役員選考委員会について承認した。
- 4) 第38回岩手県医師会親睦野球大会企画委員会について承認した。
- 5) 岩手郡医師会会計基本フレームについて検討した。
- 6) 今後のスケジュールについて検討した。

以上で議事を終了した。

平成17年度 第6回理事会議事録

日 時: 平成18年1月19日(木)
午後6時半

場 所: ホテルメトロポリタン盛岡
New Wing

出 席 者: 及川 忠人 会長、
高橋 孝・西島 康之の両副会長、
飯島 仁・上原 充郎・
久保谷 康夫・紺野 敏昭・
佐々木 久夫・篠村 達雅・
柄内 秀彦・成島 勝之助・
三善 悟の各理事

[会長挨拶]

及川 忠人 会長より挨拶があった。

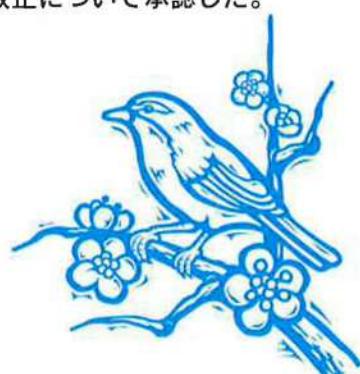
[報告事項] (及川 忠人 会長)

- 1) 町村民健康講座(岩手町:12月18日)について報告した。
- 2) 第1回岩手郡医師会役員会選出委員会(12月20日)について報告した。
- 3) 第6回GD策定委員会ワーキンググループ打ち合わせ会(1月10日)について報告した。

[協議事項]

- 1) 第38回岩手県医師会親睦野球大会実行委員会検討事項について協議した。

- 2) 緩和ケア・ホスピスケア医療講演会の役割分担(1月21日)について承認した。
- 3) 盛岡市と玉山村の合併に伴う医師会会員の異動について承認した。
- 4) 平成17年度岩手郡医師会補正予算(案)について協議した。
- 5) 平成18年度岩手郡医師会事業計画(案)について協議した。
- 6) 平成18年度岩手郡医師会予算(案)について協議した。
- 7) 第2回通常総会・特別講演及び役割分担(2月4日)について検討した。
- 8) 岩手郡医師会定款の一部改正について承認した。
- 9) 岩手郡救急医療対策協議会設置要綱の一部改正について承認した。



部会報告

地域医療部会

担当理事 篠 村 達 雅

1. 平成17年度 岩手郡医師会

緩和ケア・ホスピス医療地区別研修会

日 時：平成17年11月26日(土)

午後2時半

場 所：ホテルメトロポリタン盛岡
New Wing

出席者：医療従事者35名であった。

講演1 「当院における緩和ケアの取り組み－医療連携を中心に－」

講 師：岩手県立中央病院消化器センター
外科 望月 泉 部長

座 長：岩手郡医師会 西島 康之
副会長

講演2 「チーム医療のすすめ－
21世紀のわが国の医療－」

講 師：京都府立医科大学名誉教授
(神経内科)

介護老人保健施設「がくさい」
施設長 中島 健二 先生

座 長：岩手郡医師会 及川 忠人
会長

担当理事 岡 田 行 生

2. 平成17年度

岩手郡医師会住民公開講座

日 時：平成17年12月18日(日)

午前10時

場 所：岩手広域交流センター「プラザあい」

出席者：主として岩手町民約200名で
あった。

講演1 「大腸ガンについて」

－町の検診も含めて－

講 師：岩手県立沼宮内病院
宮本 勇二 内科長

講演2 「健康って、なんだろう？」

講 師：岩手大学健康管理センター
立身 政信 センター長

担当理事 篠 村 達 雅

3. 平成17年度 盛岡地域

メディカルコントロール協議会

日 時：平成18年1月24日(火)
午後3時

場 所：盛岡地区広域行政事務組合
消防本部6階会議室

[報告事項]

1) メディカルコントロール体制の充実
強化に係る国に対する対応について

2) 平成17年度岩手県救急業務高度化
推進協議会の協議結果について

[協議事項]

1) 盛岡地域メディカルコントロール協
議会の副会長の選出について

2) 救急救命士の薬剤(エピネフリン)
投与の実施について

3) 救急救命士の特定行為に係る傷病者
の搬送先医療機関等について

[その他]

1) 気管挿管の実施可能な救急救命士の
認定状況等について

2) 事後検証の実施状況について

広報部会

担当理事 栄内秀彦

第3回 会報編集委員会

日 時：平成17年12月13日(火)

午後7時

場 所：ホテルメトロポリタン盛岡
本館出席者：及川 忠人 会長、栄内 秀彦・
紺野 敏昭・成島 勝之助の
各理事、秋濱 朋子・植田 修・
山口 淑子の各編集委員

〔協議事項〕

- 1) 会報No.83、2005年12月号の校正を行った。
- 2) 会報No.84、2006年3月号の内容検討を行った。
- 3) 次回の会報編集委員会の開催について協議した。

勤務医部会

担当理事 岡田行生

第102回 勤務医部会幹事会

並びに北上医師会会員懇談会

日 時：平成18年1月21日(土)

午後3時

場 所：ホテルシティプラザ北上

〔報告事項〕

勤務医部会活動状況について

岩手県地域がん・地域脳卒中登録事業
について報告があった。

〔講演〕

「岩手県の緩和ケアの現状について」

北上済生会病院 斎藤 和好 院長

「北上地区の緩和ケア」

県立北上病院 星野 彰 地域医療料長

「沢内村から西和賀町へ－生命尊重行政
の行方、病診連携をどう作るか－」西和賀町国保沢内病院 新階 敏恭 院長
3氏に講演をいただきそれぞれ討論された。

学校医部会

担当理事 上原充郎

1. 平成17年度 第22回 岩手県
学校保健・学校医大会

日 時：平成18年1月15日(日)

午前10時

場 所：岩手県医師会館

出席者：約200名であった。

岩手郡医師会からは下記の発表があった。

「05年2月からの当院における

インフルエンザの流行について」

岩手県小児科医会 上原 充郎

2. 平成17年度 第2回 岩手県医師会
学校医部会幹事会

日 時：平成18年1月15日(日)

午後12時半

場 所：岩手県医師会館

〔報告事項〕

- 1) 平成17年度活動報告について報告された。

- 2) 第17回東北学校保健・学校医大会
について報告された。

- 3) 第36回全国学校保健・学校医大会について報告された。
4) 岩手県教育委員会との懇談会について報告された。

〔協議事項〕

- 1) 平成18年度学校医部会事業計画(案)について協議された。
2) 平成18年度学校医部会予算(案)について協議された。
3) 平成17年度学校医部会総会議事について協議された。

3. 平成17年度 岩手県医師会

学校医部会総会

日 時：平成18年1月15日(日)

午後1時

場 所：岩手県医師会館

〔報告事項〕

- 1) 平成17年度活動報告について報告された。

〔協議事項〕

- 1) 平成18年度学校医部会事業計画(案)について次の通り承認された。
平成18年度 学校保健事業計画
① 岩手県学校保健・学校医大会の開催
(平成19年1月14日)
② 学校保健委員会活動の推進
③ 児童生徒の心の健康への取り組み
④ 思春期保健への取り組み
⑤ 小児生活習慣病予防対策
⑥ 幼稚園・保育園医の組織化
⑦ 学校保健関係団体との連携
⑧ 母子保健との連携強化
2) 平成18年度学校医部会予算(案)について承認された。

健 康 教 育 部 会

担当理事 飯 島 仁

平成17年度 岩手郡医師会 住民公開講座
緩和ケア・ホスピスケア医療講演会

日 時：平成18年1月21日(土)

午後2時半

場 所：滝沢ふるさと交流館

出席者：滝沢村村民 約140名であった。

講演1 「在宅ターミナル患者への支援」

－現場を通して－

講 師：岩手県高齢者福祉生活協同組合
居宅介護支援事業所 たんぽぽ
管理者 鎌田 豊子 先生

講演2 「どうして家なのか」

－地域で支える在宅ホスピスケア－

講 師：ホームケアクリニック川越
院長 川越 厚 先生

第58回 岩手県医師会 親睦野球大会 第1回 企画委員会

総務担当理事 篠 村 達 雅

日 時：平成17年12月7日(水) 午後6時

場 所：ホテル森の風、ホテル大観、

ホテル紫苑

参加者：及川 忠人 会長、高橋 孝 副会長、

上原 充郎・紺野 敏昭・柄内 秀彦・

篠村 達雅の各理事

〔協議事項〕

- 1) 会場決定のための施設見学を行った。

「玉山村の盛岡市への合併に寄せて」

「玉山村合併によせて」

岩手郡医師会 会長
及川忠人

平成18年4月1日付で旧玉山村（現玉山区）に事業所を有する岩手郡医師会会員は盛岡市医師会に異動することになりました。平成16年4月から前会長高橋牧之介先生の後任の会長として微力を尽くして参りましたが、その中で最大の課題は町村合併問題でありました。

今回の合併は平成の大合併と言われて、約50年前の大合併以来の合併であるとのことであり、前例とはいっても、当時の関係者から、それらの課題や問題点を聞くことは不可能がありました。

平成17年度になり地域医療懇談会を開催しました。それは、各地域における課題をあらかじめ、周知する必要があると考えて実施致しましたが、合併による地域医療の変化等の予測はかなり困難であり、現実感を感じない段階での課題への議論に終わつた感があります。

しかしながら、平成17年9月1日から旧西根町、旧安代町、旧松尾村の合併により、新たに八幡平市が誕生して、市長選挙も行われ、すでに半年経過するわけでございます。また旧玉山村は本年1月10日に正式に盛岡市に合併し、地域合併特例法により、10年間の特区としての位置づけが正式になされました。特に今回は八幡平市については、そのまま岩手郡医師会に移行することを、平成16年度通常総会において承認を得ております。

したので、混乱はありませんでした。一方旧玉山村の合併については、3回の地域医療懇談会および2回の合併協議会が開催され、平成18年4月1日から盛岡市医師会への異動が、先日開催されました平成17年度第2回岩手郡医師会通常総会の議題として検討され、正式に承認されました。また同時に平成18年2月に開催された盛岡市医師会総会においてもこの異動の件は承認されたとのことを伺っております。

この合併は玉山区の医師会会員10名が盛岡市医師会へ異動することに伴い、様々な玉山地区での地域医療・検診事業・介護保険事業等に係わる事業が盛岡市医師会の管轄へと移行することが、スムーズに行われることになったことは、盛岡市医師会の白井康夫会長を始め、同医師会執行部の諸先生方のご理解とご支援の賜物であると、感謝している次第であります。今後は様々な課題を隣接する医師会としての協力体制を形成すべく鋭意努力する必要があることを痛感している次第であります。

玉山地区的先生方におかれましては、多くの分野でご支援を頂き、感謝しておりますが、今後とも岩手郡医師会への様々なご支援ご協力をお願いする次第であります。玉山地区諸先生方の今後のご発展を祈りつつ合併によせる言葉に代えたいと存じます。

「離別無くんば」

医療法人 日新堂 理事長
八角正司

感無量とでも言うのでしょうか。今、岩手郡医師会を離れるに当たって、私の想いは一口で言い尽くすことができません。昭和30年代の半ば、当時の田口博会長(栗石町)にお世話になって以来、今日まで40有余年の歳月が流れました。田口博会長は、共に医学の道に進んだ旧制中学からの友人のご尊父だった関係もあって、殊のほか面倒を見ていただいた気がします。

もちろん、佐藤尚輔、森茂尚、上野精二、宮杜亮先生ら歴代の会長先生から高橋牧之介前会長、及川忠人現会長、さらには会員の諸先生に至るまでお世話になった方々を数え上げたら切りがありません。これから旧玉山村の会員10人と共に盛岡市医師会のお世話になるわけですが、本来は11人の会員名簿から岡本彰先生のお名前を見出せないのが痛惜の極

みです。

「人生 異別無くんば 誰か恩愛の重きを知らん」

蘇東波という中国の古い詩人が、知人との別れに際して詠んだ漢詩の一節です。この詩句が、今の私の偽らざる心境です。

岩手郡医師会と盛岡市医師会。所属は違つてもそれは行政区画の問題だけで、秀峰岩手の山麓に広がる地続きという地縁・血縁の深さには変わりありません。病める人、老いたる人の幸せと健康を守る地域医療と老人保健の充実強化を図るために、それをサポートする医師会の責任は益々重くなっています。

私たちはこれからも郡医師会の準会員である、という意気込みを忘れないで頑張りたいと思います。今後とも倍旧のお引き立てをお願い致します。

「玉山村の盛岡市合併に伴う医師会異動によせて」

秋浜内科クリニック
秋濱玄

私が岩手郡医師会に入会しましたのは平成13年であります。しかし父は当地にて昭和33年に開業しており、私は玉山村済民で生まれ、済民中学校を卒業しました。山や川などの自然は昔のままのように思えます。

しかし母が当地へ嫁いできたときはまだ飲料水が井戸水だったようで、母はすぐ食中毒をおこしたり、また父が開業したてのときは馬に乗っての往診もあつたりしたようです。今と比べるとやはり隔世の感は否めません。

父の開業当時は生活保護の認定を受けている患者さんも多かったようです。今では生

保の患者さんは少なくなったと思いますが、それでも玉山村の経済は疲弊し盛岡市と合併しなければなりませんでした。そして合併といえどもその中身は吸収であります。

旧玉山村は盛岡市玉山区となりました。旧玉山村民は市民を通り越し、区民となったかの如くです。区民といえば大都市の住民のことと思っていました。盛岡の病院に患者さんを紹介するときは、これまで「玉山村の秋浜医院です」と名乗っていたところを、「玉山区の秋浜医院です」というのは、恥ずかしく気後れしてしまいます。口がうまくまわりません。

昔見た漫画に早く人間になりたいというのがありました。早く市民になりたいとも言いたくなります。(私の聞いた所では、吸収される側の不利益になることが少ないように区制度を設けたとのことで、ありがたいことですが)

当院に長く通院しているおばあさんがいます。玉山村の前身の渋民村に生まれ、今は孫が渋民中学校に通っています。その孫が昨年暮れに、閉村式に出席しました。閉村式は本来休みの日であったためいやいや出席したようですが、やがて会が進むにつれ、「自分の生

まれたところが無くなるようで、ちょっと涙が出そうになつたといつてました」と話していました。私も診察室でおもわざうなづいていました。将来を担う子供たちにとってこの合併が良いものであるよう願うだけです。

最後に、父の時代から受けました岩手郡医師会会員の皆様のご恩に深謝申し上げますとともに、これからも今までと同様ご指導頂きたく、お願い申し上げます。岩手郡医師会のますますのご発展をお祈りし、この稿を終えさせていただきます。

新入会員の紹介



きた 北	かみ 上	あきら 明 先生
【生年月日】		昭和35年12月 1日
【開業年月日】		平成17年12月14日
【開業医療機関】		
名 称		北上脳神経外科クリニック
診療科目		脳神経外科、神経内科、リハビリ科、整形外科、外科、内科
職 名		院長
所 在 地		〒028-4307 岩手県岩手郡岩手町大字五日市 11-79-65 Tel.0195-61-3636 Fax.0195-61-3633
自宅住所		〒020-0004 岩手県盛岡市山岸6丁目34-17 Tel.019-661-3027 Fax.019-661-3027
【出 身 学 校】		岩手医科大学医学部
【出 身 教 室】		岩手医科大学脳神経外科
【趣 味】		ゴルフ、登山
【岩手郡医師会入会にあたって、抱負、希望など】		

このたび故郷でもある岩手町に脳神経外科クリニックを開設しました。私は昭和60年岩手医科大学卒業後、岩手医大脳神経外科学教室に入局し、これまで岩手医大脳外科、救急センターをはじめ花巻厚生病院、県立千厩病院、栃内第2病院、能代の山本組合総合病院、昨年は4月から国立盛岡病院に勤務しました。

これまでの経験を生かし、脳神経系を中心に地域医療に貢献できれば幸いです。よろしくお願い申し上げます。

訃 報



岡 本 彰 先生

(享年60歳)

岩手郡医師会会員 岩本彰 先生には、
1月8日(日)60歳をもって御逝去されました。
会員一同、謹んでお悔やみ申し上げます。

ご 路 歴

- 【学歴】昭和46年 3月 岩手医科大学医学部 卒業
昭和50年 3月 岩手医科大学大学院 修了
- 【職歴】昭和46年 7月 国立療養所花巻病院精神科医師
昭和54年 6月 同上 退職
昭和54年 7月 玉山岡本病院院長
昭和58年12月 社会福祉法人玉山秀峰会 理事長
平成 5年 9月 医療法人真彰会 理事長
- 【役歴】◎岩手郡医師会役員
平成4年4月～平成14年3月 理事(10年)
◎その他就任なされていた役職等
岩手紫波管内合同老人ホーム入所判定委員会 委員
玉山村国民健康保険運営協議会 委員
岩手県保健福祉部傷害保険福祉課 非常勤職員
岩手県盛岡保健所 非常勤職員
岩手医科大学神経精神科 非常勤講師
- 【表彰】平成11年10月28日 岩手県知事表彰(保健医療功労)
平成17年 6月26日 岩手郡医師会総会表彰

会員の異動

◎退会会員

�冈本 彰	玉山村 玉山岡本病院 → 逝去	平成18年1月 8日付
-------	-----------------	-------------

◎区分変更

坂本 文明	玉山村 玉山岡本病院 A2会員 → A1会員	平成18年1月18日付
高橋 邦尚	滝沢村 ゆとりが丘クリニック → 医療法人へ	平成18年1月16日付

◎施設の名称/住所の変更

盛岡医療生活協同組合 工藤医院 岩手町大字江刈内9-65-14	→ 盛岡医療生活協同組合 さわやかクリニック 岩手町大字江刈内10-47-2	平成17年11月1日付
---------------------------------------	--	-------------

◎新入会員

北上 明	岩手町 北上脳神経外科クリニック	平成17年12月14日付
------	------------------	--------------

お知らせ

平成18年度会員 家族及び従業員の健康診断の実施について

例年行っている岩手県医師国民健康保険組合及びいわて医師協同組合による岩手郡医師会の会員、家族及び従業員に対する健康診断を、18年度は滝沢村会場で、下記により実施しますので、ご利用下さるようご案内いたします。

記

日 時：平成18年6月2日(金)

午前6時半

場 所：滝沢村

(健診会場は、別途お知らせいたします。)

対象者：会員、会員のご家族及び従業員

健診項目：生活習慣病による一般健診項目及び癌健診(胃、大腸、子宮、乳房)

料 金：健診料金は、医師国保及びいわて

医協の組合員については無料となります、この団体に加入していない会員については、健診機関の定めた料金表によります。

健診機関：岩手県予防医学協会

※詳細は別途事務局からお知らせ致します。

編 集 後 記

数十年ぶりといわれる大雪と寒さも峠を越え、少しづつ春めいて来る頃かと存じますが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

会報にもありますように、玉山村と盛岡市との合併のため旧玉山村の会員は3月で岩手郡医師会を退会することとなりました。

私も2004年4月に会報編集委員を仰せつかり、微力ながらお手伝い出来ればとの気持ちでまいりましたが、思い返すと全くお役に立てなかつたのでは……と反省しております。編集委員会では、会長初め理事・編集委員の先生方の博識ぶりに「なるほど、この言葉はこういうときに使うのか。」「この言葉の語源はこういうことなのか。」などうなずくことが多く、和気あいあいとした雰囲気の中、勉強させていただいた2年間でした。

合併したとはいえ、今後も岩手郡医師会の先生方には患者さんの紹介などで、これまでと同じくお世話になることと存じます。今後もどうぞよろしくお願ひいたします。
(秋濱)

トリノオリンピックが開催されました。開会式はイタリアのセンスが光っておりました。今年は医師会野球の主催の予定であり、岩手郡医師会のセンスを発揮できる機会と思われます。より速く、より強く、より高く、より美しく、岩手郡医師会のますますの飛躍を期待します。
(植田)

気がつけば好摩の地に医院を開業して9年が経とうとしていました。この間岩手郡医師会にはいろいろとお世話になりました。

開業の際には高橋牧之介前会長のご高配により入会させていただき、2年前からは及川忠人会長のもとで理事として広報の仕事に携わりました。さらに柄内秀彦先生のご指導を得て、岩手郡医師会会報の作成に係わることが出来たのは、自分にとって大きな財産となりました。会報の78号から84号までの7回の会報作成は他では得ることの出来ない貴重な経験であったと思います。ただ残念なことといえば会報第100号の作成に携わることが出来なかつたことでしょう。

これからは皆様にお世話になったことを忘れず、盛岡市医師会で足を引っ張らない程度にやっていきたいと思います。それでは岩手郡医師会および会報編集委員会の益々の発展を祈って編集後記とさせていただきます。
(成島)

岩手郡医報：No.84／2006年3月発行
発 行：社団法人 岩手郡医師会
発行責任者：岩手郡医師会会长 及川忠人
事務局：〒028-7303 八幡平市柏台二丁目
8番2号東八幡平病院内
電話 0195-78-2607
FAX 0195-78-2555
<http://www.iwategun-med.or.jp>
印 刷：(株)吉田印刷